



東京大学大気海洋研究所



Atmosphere and Ocean Research Institute, The University of Tokyo

2020

要覧 | CATALOG

年報 | ANNUAL REPORT



C O N T E N T S

2020

ATMOSPHERE AND
OCEAN RESEARCH INSTITUTE
THE UNIVERSITY OF TOKYO

要覧 | CATALOG

沿革 History	P2
機構 Organization	P4
委員会 Committees	P6
教職員 Staff	P8
共同利用・共同研究拠点 Joint Usage / Research Center	P13
教育システム Educational System	P23
部門とセンターの研究内容 Research Contents	P28

年報 | ANNUAL REPORT P74

国際協力 International Cooperation	P75
共同利用研究活動 Cooperative Research Activities	P87
教育活動 Educational Activities	P101
予算 Budget	P104
研究業績 Publication List	P105

COVER IMAGES

①	②	③
④	⑤	
⑥	⑦	⑧
⑨	⑩	⑪

- ①: プレスリリース「モガニ属の新種「オオヨツハマゴニ」を発見〜三陸の藻場における重要種」から「新種オオヨツハマゴニ *P. ferox* Ohtsuchi & Kawamura, 2019」
- ②: プレスリリース「ウミガメ由来の海洋観測データを季節予測シミュレーションに活用 ―バイオロギング手法により海洋・気象観測網の発展に可能性―」から「産卵を終えた後、深度・水温情報を送信する人工衛星対応型発信器を背甲に取り付けられて海に帰るヒメウミガメ。2019年6月、インドネシア西バプア州のワルマメディ海岸にて。装置はエポキシ接着剤で装着され、1年から2年後に自然に脱落する。現地政府の許可を受けて野外調査を行っている。(撮影:佐藤克文)」
- ③: AORI写真コンテスト2019海・空部門エントリー作品「富士山・笠雲・レンズ雲」(一部抜粋) 松峯正典
- ④: 研究トピックス「インドネシアシーラカンス研究最前線」から「インドネシアシーラカンス計測の様子。2017年5月31日 アクアマリンふくしまにて」
- ⑤: HPCI戦略プログラム分野3の一環としてスーパーコンピュータ「京」で実施した3.5km格子NICAMによる全球雲解像実験 (hp120313) Visualized by Dr. Daisuke Matsuoka (JAMSTEC)
- ⑥: 研究トピックス「単細胞を飼う単細胞:浮遊性有孔虫と藻類の光共生関係の解明」から「本研究で用いた浮遊性有孔虫30種。スケールバーは200 μm」
- ⑦: UTokyo FOCUS – Articles「海海洋の内部波によるサンゴ礁の冷却 ～白化緩和効果の可能性を指摘～」から”Researchers maintain a reef flat temperature logger in Iriomote, Japan. Photo by Alex S.J. Wyatt.”
- ⑧: 研究トピックス「オオメジロザメはなぜ河川でも生息できるのか? その生理学的メカニズムの解明」から「研究対象のオオメジロザメ。沖縄本島や西表島などの河川でも生息が確認されている」
- ⑨: 2019年に就航30周年を迎えた学術研究船「白鳳丸」(2代目)
- ⑩: 研究トピックス「海底堆積物中の有孔虫化石の高精度分析から読み解く大気・海洋間の炭素交換 ～最終氷期からの回復期に赤道太平洋から大気への二酸化炭素放出は不均質に起きていたことを解明～」から「本研究の分析に用いた浮遊性有孔虫 *G. ruber* の電子顕微鏡写真」
- ⑪: プレスリリース「降海から北方回遊へ:大槌湾内におけるサケ稚魚の時空間的分布を環境DNA分析により解明」から「湾奥から望む大槌湾」